

須恵

つわっ!!
つめた〜い

6月定例会 主な内容

1,842万円増額 平成24年度 一般会計補正予算を可決! **2▶**

ここが聞きたい (一般質問) **4▶**

なんぼしようど? (盆踊り) **12▶**

限られた財源の中、予算確保は適正か



開会を宣言する三角議長

平成24年第2回定例会は、6月14日から6月21日までの8日間で行われ、提案された議案6件は原案のとおり可決・承認されました。

平成24年度 一般会計補正予算

1,842万円増額 全員賛成で可決

平成24年度一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1842万円
5000円を追加し、総額がそれぞれ75億8842万
5000円となりました。

歳入

歳入の主なものは、前年度繰越
金1262万4000円、宝く
じを財源としたコミュニティ助
成事業250万円、一般寄附金
250万円等です。
寄附金のうち200万円は財政
調整基金に積み立て、50万円は小
中学校の図書購入費にあてられま
す。

歳出

歳出では、電算システム改修費
403万3000円、プレミアム
商品券発行事業補助金100万
円、須恵中学校防球ネット設置工
事請負費355万円、子どもの社
会力育成塾運営委員会補助金60万
円、アザレアホール屋根修繕費
60万円、校区コミュニティ備品購
入費260万円等の増額です。



商品券を買い求めるためにできた長い列

予算審査特別委員会

主な質疑と応答

■校区コミュニティ備品購入費 260万円

問 プロジェクター・スクリーン・テ
ントは3校区全てが対象か。
購入費は入札による金額か。

答(まちづくり課)

3校区すべてに渡したいと考えて
いる。価格は定価で計上しており
今後入札を行う。250万円以上
でない補助対象でなくなるため
入札の結果250万円を超えない
場合はテントを追加購入する予定。

■プレミアム商品券補助金 100万円

問 販売総額およびプレミア率が前回
とは変わっているが、商工会との
話し合いはあったのか。
また、この補助事業に関して今後
の県の動向は。

■建設産業課

答 (建設産業課)
販売総額2000万円、プレミア
率10%という内容については商工
会からの提案。商品券は8月5日
発売予定。ユーザーの固定化等に
より、活性化の意味合いが薄れる
ことのない様、データを分析し、
商工会と協議していきたい。県か
らの補助がある限り続けていきた
い。

■子どもの社会力育成塾 運営委員会補助金 60万円

問 具体的内容は。

答(社会教育課)

地域における社会貢献活動を通し
て、子どもたちの規範意識や自尊
感情を高めるための事業。第二小
学校4・5・6年生、東中学校1
年生から5名ずつ計20名を募集。
来年度以降は地域でボランティア
活動などを行う予定。

規約の変更

- 福岡県介護保険広域連合規約の
変更
- 福岡県後期高齢者医療広域連合
規約の変更
- ※外国人登録制度廃止に伴う変更
(全員賛成で可決)

条例の改正

- 須恵町印鑑条例の一部を改正す
る条例
- 須恵町手数料条例の一部を改正
する条例
- ※外国人登録制度廃止に伴う改正
(全員賛成で可決)

町営路線の認定

- 町営路線の認定
- ※宅地開発に伴い野間四号線(新
原)を一般公共道路として新
規認定
(全員賛成で可決)

請願

- ◆「少人数学級推進」、「義務教
育費国庫負担制度拡充」を国
の関係機関に求める意見書提
出に関する請願

賛成3 反対10
(賛成少数で不採択)

陳情

- ◆国民医療と国立病院の充実強化
を求める陳情書

賛成10 反対3
(賛成多数で採択)

- ◆大幅増員と夜勤改善で安全・安
心の医療・介護を求める陳情
書

賛成3 反対10
(賛成少数で不採択)

意見書

- ◆拉致問題意見書
(全員賛成で可決)



答弁中の中嶋町長

どこまで出来るの町のインフラ

建設産業課を窓口而努力

問

昨年町では、町内20行政区で、まちづくり懇談会が実施されました。住民のニーズに応えるまちづくりが要求される今日、その問題点が明確に示された様に思います。大別すると「人と物」「コミュニティとインフラ」、行政と住民が協力して出来る仕

組み作りと、町の発展や開発に伴うインフラ整備だと思えます。中央駅・役場周辺を核とした開発、スマートICを中心とした志免須恵線の拡充、隣接する三町のぼた山のゆくえ、県道筑紫野古賀線の拡張、今後の推進策、取り組みについて町長の考えを聞きたいと思えます。

答 中嶋町長



藤石 豊 議員

インフラを整備することにより人口が増え、町の活性化につながっていくと思っております。須恵中央駅付近の須恵町の核となるような整備については、県道筑紫野古賀線の拡幅計画と一体で考えていきますが、現時点ではなかなか

か難しいようです。スマートインターの周辺整備については、現在数件の問い合わせがありますが、地元旅石の地権者の方と相談しながら、周辺が一体的に開発できるように、建設産業課を窓口



須恵中央交差点

極的に国際大学の誘致等ができないかと考えています。県道筑紫野古賀線の整備については、今年度宇美町境の新原工業団地入口までが工事発注されています。平成25年度からは、新原工業団地入口から須恵中央交差点までを整備する計画がなされています。県や国とも情報収集しながら懸命に努力していきます。

行政区の課題に対する支援は

行政と住民が協働しながら

問

中嶋町長は平成14年に初当選され、中嶋行政10年が経過しました。当時は赤字団体になりうる状況でしたが、行政改革を推進し、健全な財政運営を維持しています。以前から3期目は攻めの行政を行うと言われていますが3期目も中間点にさしかかり町長が目指すまちづくりはど

答 中嶋町長

ここまで進捗したのでしょうか。行政区では組合加入率の低下、高齢化、行政区間の人口格差等さまざまな問題を抱えています。今後どのように町が支援していくのかお聞かせ下さい。平成14年に就任以来、教育を基盤に「教育のための社会づくり」をスローガンにまちづくりを行ってまいりました。住民一人一人が「額に汗を流して頑張ろう」という気持ちを起こさせることが組合加入率も増加させていくと思っております。今年度、佐谷区

防災力強化の観点から、自主防災組織・要援護者避難支援のモデル事業を行います。そして、この事業を全行政区へ展開し、お互いが手を取り合い助け合いながら、行政と住民が一緒に汗を流していく協働の魅力ある町・魅力ある行政区を作っていきます。組合加入率80パーセントを目標として支援していきます。

行政区の再編については、現在一番小さい行政区で世帯数141世帯、一番大きい行政区で1113世帯と8倍ほどの格差があります。500世帯程度が適正な規模と考えられます。再編を行うため、まず行政内部で検討委員会を設置し、検討していきたいと考えています。



松山 力弥 議員

今年度、佐谷区において災害時の助け合い、地域の



昨年開催されたまちづくり懇談会の様子 (佐谷区)

気になる今後のまちづくり 町政を問う!

認知症サポーター養成の取り組みは

サポーター養成講座を実施

問 一人暮らし高齢者の見守りが各区を中心が始まろうとしています。高齢化社会となり認知症のかたを抱える家庭も多くなりました。認知症への理解不足や認知症のかたとの接し方がわからないなど、これから認知症への理解促進の取り組みが必要になっていきます。

答 先日、※キャラバンメイト養成研修会が2回開催されていますが、須恵町では何名の受講があり、キャラバンメイトさんの総数は何名になりましたか。

現在の須恵町における認知症サポーター養成の取り組み状況と、これからの取り組みについてお聞きします。



今村 桂子 議員

中嶋町長 先日開催された研修会には、8名の受講があり、平成24年3月現在で11名の方がキャラバンメイトの資格を有しています。また、本年4月から開設された須恵町地域包括支援センターの職員も受講しており、今後、研修会での講師役を予定しています。

今後の取り組みとしては、まず民生委員の皆さんに養成講座を受講していただき、認知症の早期発見・早期対応を推進します。その後、各種団体向けにミニ集会や養成講座を実施して多くの方々に認知症についての正しい理解をしていただければと思います。

高齢化とともに認知症の方の数は増加しており、全国で85歳以上の4人に1人が発症するといわれています。本町では85歳以上の方が680名ですから、170名の方に症状が出てもおかしくないと思われれます。認知症にならないような工夫が必要です。例えば託老所のようなものができ昼間は子どもたちと一緒に過ごす中で、何らかの形で



サポーター養成講座実施準備中の包括支援センター職員

※キャラバンメイト
認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を努める人です。キャラバンメイトになるためには所定の研修を受講し登録する必要があります。



日本一の議会広報

広報特別委員会 視察レポート

平成24年6月6日～7日 山梨県昭和町



研修中の広報委員

平成24年6月6日～7日、山梨県昭和町議会に広報の視察研修に行きました。

昭和町は東西4km・南北4.84kmで、甲府盆地の美しい自然と交通・産業の中心としての利点をいかけた田園都市です。面積は9.14km²・人口1万7417人・議員数16人です。

昭和町議会は、平成23年度町村議会広報全国コンクールで、議会だより149号が最優秀賞を受賞されています。研修時、153号の発行を終えられたところでした。24ページ編成の余裕のあるレイアウトで、分かりやすく・読みやすい紙面となっています。

『議会改革』『議員と学生がワークショップ』などの特集や、住民・議員の対話集会『井戸端会議』、区長と議員の対話集会『多事総論』など活発な議会活動の様子が手に取るように伝わってきます。また、予算・決算審査や委員会報告なども審議の経過や内容が分かりやすくまとめられ、円グラフなどで見やすく工夫されています。

一般質問の追跡記事や住民参加の連載『昭和町に住んでみて』など町民が興味を持てるような記事など、紙面構成にも工夫がこらされています。

研修では、議会広報作りに関する説明・質疑・応答の後、「須恵町議会だより」のクニックをしていただきました。

昭和町は2007年から議会改革に取り組み、休日議会や議会活動報告会が開催されており、2010年に議会基本条例を制定しています。山梨学院大学と連携を結び、学生による町民の議会に対する意識調査・模擬議会の開催・町づくり政策提言報告会なども行われています。

また、議会改革の一環として本



昭和町役場正面玄関にて 昭和町広報委員の皆さんと

年3月議会で議会災害対策本部設置要綱を制定し、災害時における議会・議員の対応マニュアルを作成されています。

この研修後、須恵町議会でも全員協議会において、災害時行動マニュアル作成の提案を行い、総務建設産業委員会で作成し議会に提案することになりました。

広報作成に当たり、研修で学んだことを取り入れながら、更に町民の皆様に興味をもって読んでいただけるように工夫をこらしていくと共に、議会活動を理解していただけるように、分かりやすく・読みやすい広報作りに取り組んでまいります。

特集

須恵町教育施策要綱

教育目標実現のために24年度に取り組む主な事業

オアシス運動の普及啓発



オアシス通りロゴマーク

小中学校での学力向上を組織的に図ります。



学力向上

「感動する心の教育」
「感謝する心の教育」
「共感する心の教育」
を目指して

道徳教育の推進



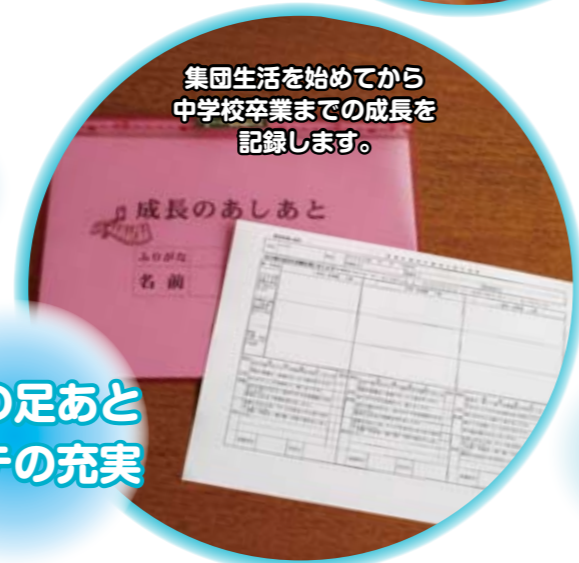
第三小学校
道徳参観の様子

生活規範指導員 制度の充実



あいさつや掃除のしかたを指導します。

成長の足あと カルテの充実



集団生活を始めてから
中学校卒業までの成長を
記録します。

町長報告



中嶋 裕史 町長

昨年3月11日に発生した東日本大震災をはじめとして、平成7年の阪神淡路大震災、福岡県西方沖地震、平成21年の中国・九州北部豪雨災害などの発生により、最近住民の災害に対する関心や防災意識が高まり、行政としても「安全・安心のまちづくり」が重要な課題となっています。

須恵町では、以前から「自主防災活動」に強い関心を示されていた佐谷区を、今年度、自主防災組織設立のモデル地区に指定し、福岡県消防防災指導課の協力を得て、自主防災組織の結成を支援していく予定です。

自主防災組織の結成に向けて

この自主防災組織設立促進モデル事業を第一歩として、将来的にはこの組織が、ほかの地区にも拡大していくことを期待しています。

現在、多くの行政区において組合加入率の低下の問題が大きな課題となっています。地域社会におけるつながりが希薄となりつつある中で、災害時に助け合う共助の精神に基づく「自主防災活動」をコミュニティ維持・隣組復活のチャンスと捉えて、自主防災組織が構築されていく中で、組合加入促進の一助となればと考えています。

また、一人暮らしの高齢者や障がい者などの災害時弱者に対して支援を行うために進めている「災害時要援護者避難支援対策」とあわせて、今後も災害に強いまちづくり、安全・安心なまちづくりに邁進する所存です。

教育行政報告

平成23年度の教育活動では、小中学校の生活規範指導の定着が大きな成果となりました。

特に須恵中学校の生活環境は大きく改善し、教育施策として掲げている「感動する心の教育」「感謝する心の教育」「共感する心の教育」が小中学校職員にも浸透し人権道徳教育が着実に進んでいることを裏付けるものと思います。

須恵町の教育行政の特長である児童福祉を包含した教育支援体制や生活規範指導員制度、成長の足あとカルテ等は全国に類を見ないシステムであり、学校自己評価報告会、オアシス運動等とあわせて有識者から好評価をいただいています。

平成24年度は須恵町教育振興基本計画実施4年目に入ります。「感動する心の教育」「感謝する心の教育」「共感する心の教育」を更に充実させ

生活規範指導が定着

人権道徳教育の柱として取り組んでいきたいと思えます。

学力向上については、本町で組織する学力向上検証委員会に対して福岡教育事務所からの支援を受け、更なる充実を図る予定です。

社会教育においては、教育委員会として生涯学習を推進するとともに、地域に貢献する生涯教育の理念に基づき、社会教育基盤の充実に努めます。



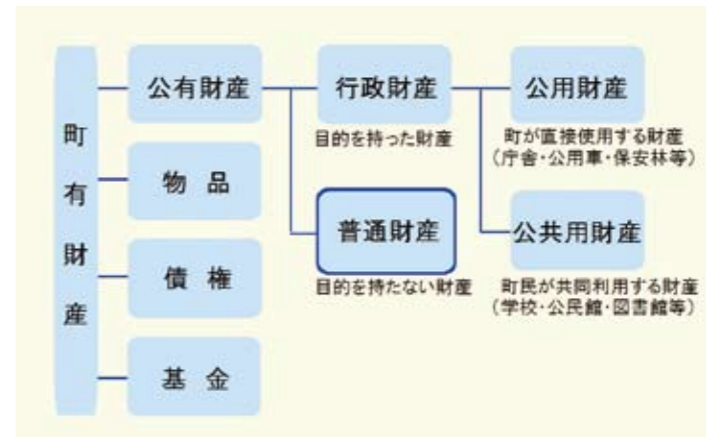
平松 秀一 教育長

町有地を視察

5月24日（木）町有財産の中、特に目的を持たず貸付や売買が可能な普通財産について、調査を行いました。
担当のまちづくり課の案内で十数カ所の物件を時間をかけて見て廻りました。机上の説明とは違い、高低差や広さに加え周りの状況などの現状を再確認することができました。



町有地を視察する議員団



財源確保のため、特に閉園後の東幼稚園およびかやの保育所跡地（各約1200坪）の売却が期待されます。
住民サービスの維持、拡充をはかり、更なるインフラの整備をしていくための財源を国、県の補助とあわせて確保していくことが課題です。

委員会レポート a committee report

社会福祉協議会と合同会議

7月20日（金）地域活性化センターにて、社会福祉協議会（総務委員）との合同会議を行いました。
この会議は毎年1回、社協事業についての理解を深め、連携を密にするために行っているものです。



合同会議の様子

- 社協事業や町からの受託事業などについて協議を行いました。町からの受託事業として
- (1) 家族介護者交流事業
 - (2) 手話通訳者派遣事業
 - (3) 福祉センター
 - 管理運営事業
 - ① 浴場サービス事業（公衆浴場ほたるの湯）
3万180人利用
（ヘルストロン）
1万7928人利用
 - ② 車椅子貸付事業 70件利用
 - ③ チャイルドシート貸付事業（ベビー）50件利用
（チャイルド）61件利用
（ジュニア）21件利用
 - (4) 小地域レクリエーション元氣講座（レクリエーション活動をとおしての介護予防・生きがい作り・仲間作りを目標に、今後未実施4行政区で実施予定です。）16行政区実施
- 積極的な意見の交換を行い、有意義な協議となりました。（利用人数・件数は平成23年度の実績です。）

議 | 長 | 通 | 信

Chairperson Communication



三角 良人 議長

消防団

消防団は、人が住み地域社会が形成されると火災等への対応は地域の人たちが当たらなければならぬという、地域自衛のなかから生まれました。常設消防（消防署）が設置されたのは30数年前で、都市部にしかないなか、災害が多い我が国の地域安全は消防団中心で守られてきました。

先日、伝統ある須恵町消防団の第53回ポンプ操法大会が行われました。開会式の選手宣誓（旅石分団 印藤 真）で「こ

れまで私たちを支え、励まし、指導してください。た全ての方々への感謝の気持ちを抱いて。住民の命を守り、尊厳を育む「消防精神」を育てることにあります。苦しいなかにも支えてくれるすべての方に感謝の気持ちを忘れず、有事に備える消防団。まさに共助の精神がここに生きていますと感激しました。

人権擁護委員を推薦

任期満了に伴う人権擁護委員に

- 今泉 守正 氏（甲植木区・60歳）
- 東郷 行美 氏（藤浦区・60歳）

が推薦され、議会が賛成しました。
任期は、法務大臣が委嘱した日から3年間です。

臨時議会

第1回臨時会 4月26日 全員賛成

- 専決処分の報告5件
- 工事請負契約の変更について（第二幼稚園（仮称）造成工事）

第2回臨時会 5月21日 全員賛成

- 工事請負契約の締結について（須恵中学校耐震補強工事）
- 工事請負契約の締結について（第二幼稚園（仮称）建設工事）

お詫びと訂正

議会だより181号13ページ平成23年度歳入歳出補正予算の表の単位に誤りがありました。

誤（単位：円）

正（単位：千円）

お詫びして訂正します。

お知らせ

町議会の活動状況を知るために、どなたでも傍聴できます。申し込みの受付は、役場4階議会事務局で行っています。なお、次の定例議会は9月5日からの予定です。

すえまち未来



作・田原ウーコ
1979年須恵町生まれ。イラストレーターとして福岡を中心に九州・東京の広告やエディトリアルにて活動中。http://www.woco.net/

なんば しょうと? 第5回

地域の特徴

盆踊り



城山区の盆踊りの様子

須恵町の地域の特徴や伝統行事等を紹介します。そこで今回は、“盆踊り”ってなんばしょうと？

一番田区の柴山さんと城山区の佐藤さんにお話を伺いました。

精霊とともに踊る

盆踊りは、盆に招いた祖霊を迎え、送るための念仏踊りであるといわれています。盆踊りの空間は、あの世とこの世の境界であり、踊りの所作には霊と自分自身の親しみを表す所作が必ず含まれています。

娯楽の少なかった昔には、盆踊りは運動会とともに地域総出の行事でした。近年では商店街や町内会が盆踊りを主催することが多くなり、宗教色を脱してイベント的な性質を強めています。



柴山 正俊 さん

佐藤 蔵一 さん



家族連れで賑わう会場

須恵町では8月13日に、城山区（納涼大会）と一番田区（納涼盆踊り大会）が行われています。やぐらのまわりを、曲（炭坑節、須恵町音頭など）を流して輪になって踊ります。また、夜店や舞台での催しなどで賑わいます。

毎年、お盆で里帰りをされている方も参加され、盛大な祭りとなっています。ぜひ皆さんも参加されて下さい。

編集後記

人に会うと様々な声をいただく。「須恵町が大好きだ、昨今の事情から防災について関心が高い。愛するふるさととはまた、守るべきふるさとでもある。防災というと、心がまえから家庭の取り組み、インフラの整備など、どこまでも課題がある。その上でやはり、地域のつながりが、決定的に大事だと、様々な教訓が教えてくれている。

地域のつながりを再確認できるのが祭りだ。夏は祭りの季節。祭りは、地域のつながり、人のつながりを深く強くしてくれる。お盆にふるさとに帰ってくる人もいるだろう。大いに楽しみたいものだ。人々が大事にしてきたふるさとの祭りを、これからも百年二百年と受け継いでいくためにも

田ノ上真

広報特別委員会

議長：三角 良人
 委員長：今村 桂子
 副委員長：合屋 伸好
 委員：百田 輝子
 委員：田ノ上 真